平成28年6月1日
第109号

やかたばら環境通信

◇◇　発行　◇◇
八方原の環境を守る会
代表　黒瀬和美
電話　972・5819

力を合わせて水路清掃



暗渠の中を掃除するお手製の特殊スコップ



作業終盤、沈殿升の泥上げには各部分の作業が終了し、たくさんの人が参加

5月22日、水路の一斉清掃が行われました。小郡地域の全体でも各自治会ごとに行われる環境整備の活動です。八方原自治会では農業関係者が中心となって、排水側の清掃は行っていますので、22日の作業は配水側の清掃です。

好天に恵まれ、作業は2時間かからないうちに終了しました。前年の夏の雨量などで上流から流れてくる土砂の量も左右されますが、昨年は平年並みの降雨だったせいか、水路の土砂もそれほど多くはありませんでした。ただ水路の開閉式ゲートの周りには土砂が沈殿しており、その部分は慎重に作業が行われました。

前述の配水側の清掃は5月7・8日の二日にわたって行われました。圃場からの落水側ですので、冬から春にかけての降水量が影響します。麦作影響もあるようですが、今年は非常に厳しい作業となりました。2日間延べ50人以上が5時間の作業でした。

これで、今年一年の配水が効率よく保たれるでしょう。参加されたみなさん、大変お疲れ様でした。



深いところでは10ｃｍほどの土砂

「総会」一年間のご報告



資料を見ながら、活動報告を念入りに

平成28年度八方原の環境を守る会の総会が5月21日八方原公民館で開催されました。

平成27年度の多面的機能交付金の二つの事業と収支決算報告が行われ、承認されました。平成28年度の事業計画と予算案についてもほぼ例年通りの内容が示され、これも承認されました。

役員人事については、先に行われた役員会での決議案が示され、これも承認されました。健康上の理由で原田信義さんが退任され、伊藤悦子さんが新役員となられました。

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

楽しく運動　親しく交流　大運動会



男子の「百足競争」、左端が八方原チーム

5月15日、小郡地域大運動会が行われました。八方原自治会も参加しましたが、78の自治会組織のうちの22自治会の参加と、少し寂しくなっています。



バケツに入れた玉を移し変えながらのリレー、走路はジグザク

しかし参加人数では1700人を超える規模であり、相変わらず大きなスポーツイベントです。

従来からの競技種目に加えて、防災活動の訓練を取り入れた「かけぬけろ！防災バケツリレー」という競技も行われました。今回は小学生と50歳以上が対象でしたが、今後は得点種目になるかも知れません。

総合結果は「わかば台」が昨年に続いて2連覇。八方原自治会はリレーなど得点競技にエントリーできなかったこともあって、上位に入ることはできませんでした。

スポーツを通じて地域の一体感を高める良い機会となりました。

避難・防災の訓練

八方原自治会・消防組

恒例となった自治会公民館の避難訓練が5月8日に行われました。担架でのけが人の搬送、小型ポンプでの放水も行いました。

また消火器を使った消火訓練も行われ、多くの人が緊急の際の体験をしました。落ち着いてやっているつもりでも、操作のミスがあったり、機材の傷みも発見できるなど、訓練の大事さを実感したものとなりました。



作成した土嚢は役100個、地域内5箇所に配置

消防組はその後、施設点検と防災用の土嚢作りを行い。地域内の必要箇所に配布しました。こうしたものを使わずにすむのが一番です。

また消防組では、軽訓練用の帽子を導入しました。緊急時には防災ヘルメットの着用が必要ですが、施設点検などの着用で組員の識別と意識の高揚を図ります。皆さん、よろしくお願いします。



消防組の帽子

40年間ものご活躍に感謝

小郡地区生活改善実行グループ連絡協議会の卒業式

さまざまな場面で活躍してこられた「生改連」が41年の歴史に幕を下ろすことになりました。

昭和50年代に発足して都市近郊農業の農家生活の向上を目指して、地域の特産の作成や、地域イベントの開催、小郡地域イベントの協力など数多くの足跡を残してこられました。

本年3月をもって「卒業」ということとなりました。その間たくさんのメンバーが関わってこられました。レンゲ祭りの開催も思いで深いですね。また地元野菜の直販を目指した「八方原ファンクラブ」の試みは、非常に先進的なものでした。小郡文化祭のバザーの「うどん」といえば「生改連」でした。



4月26日に、「卒業式」が行われ、記録冊子が配布されました。多くの実績と思い出を残してくださいました。本当に長い間、ご苦労様でした。